



松本市民生委員・児童委員協議会だより

第92号

令和6年11月30日

ふれあい

発行者 松本市双葉4番16号
松本市民生委員・児童委員協議会
会長 草深邦子

松本市社会福祉大会で表彰

(10月21日)

社会福祉に功労のあった方々が表彰されました。
おめでとございます。ご芳名は次頁にあります。



記念講演

「熊本地震災害の経験をとおして
～災害に備えた
顔の見える関係づくり～」
講師 緒方誠 様



アルプちゃんかつむぎちゃん



福祉施設の販売がありました



バッグを持つつむぎちゃん

令和6年秋の表彰者・令和6年度主任児童委員会・
5 専門部会活動報告…………… P2・P3
今回のニューフェイス …………… P4
子ども達を救え～ Save the Children ～… P4
主任児童委員さんにインタビュー …………… P5

ワンポイントアドバイス …………… P6
フォトギャラリー …………… P7
ひきこもりとその支援について・
つばやき・編集後記 …………… P8

令和6年度表彰者

〔長野県〕

◎長野県社会福祉協議会会長表彰

●民生委員・児童委員功勞表彰

中原 文子（第二）	丸山 妙子（第三）	野村 長司（中央）
大島 住子（中央）	山田 和子（城東）	中村 宗晴（白坂）
長岩 重男（田川）	萩原 よう子（庄内）	大谷 美紀子（庄内）
齋藤 豊美（島立）	高山 澄子（芳川）	片桐 博人（寿）
前田 民江（入山辺）	橋浦 満知子（本郷）	

◎長野県民生委員児童委員協議会連合会会長表彰

●永年勤続民生委員・児童委員表彰

松林 廣（第三） 新井 ひろこ（里山辺）

〔松本市〕

◎松本市社会福祉大会表彰

●社会福祉事業特別功勞者（民生委員・児童委員）

長野県民生委員児童委員協議会連合会会長表彰の皆様と同じ

表彰規定

- ・長野県社会福祉協議会会長表彰…基準日（4月1日）において、民生委員・児童委員であり、在職期間が10年以上
- ・長野県民生委員児童委員協議会連合会会長表彰…令和6年11月30日現在で在任期間が10年以上の現職の民生委員・児童委員
- ・松本市社会福祉事業特別功勞者…現職の民生委員・児童委員で在職期間が10年以上

令和6年度

主任児童委員会・5専門部会 活動報告

主任児童委員会

委員長 赤井 幸子

5月、篠ノ井円福寺愛育園を視察しました。様々な事情で園舎で集団生活する子どもたちの、心の養育や心のケアの重要性と自立に向けての様子をうかがいました。また、創立76周年をむかえ、社会福祉の拠点として地域に受け入れられる影には、藤本園長はじめ職員の方々の献身がある事に心を打たれました。運営方針がとても勉強になりました。

7月、全体研修会として松本市の子育て支援事業ファミリースUPPORTの現状について、松本市こども育成課と現役サポーターの赤堀さんからお話していただきました。支援希望者に協力が追いついていない現状や、支援クーポンについてもいかがい、孤立しがちな子育て家庭に暖かい目を向けて対応する心構えを再認識しました。

9月、「赤ちゃんから大人までの心を育てる」と題して保育心理士の赤沼さんをお迎えして講演会を行いました。子供の発達課題には順番があり、問題を抱えた親子が子育てを振り返る事で親子関係が改善したなど、具体的なお話しで考えさせられました。いずれも今後の活動につながる有意義な研修となりました。これからも地域の子育て家庭の事情や心配の声に耳を傾けて、心に寄り添う活動を目指したいと思います。



篠ノ井円福寺愛育園 視察研修 5月21日

児童福祉部会

部会長 松川 靖彦

第1回目は、最近の児童虐待問題を受けて、松本市の児童虐待防止施策や虐待の背景などについて話を聞きました。

子どもは地域の宝、子どもが安心安全に暮らせるよう見守る大切さを学びました。

第2回目は、木曽郡上松町の子ども食堂「寺子屋食堂」と児童養護施設「木曽ねざめ学園」を訪れました。「木曽ねざめ学園」は、未来の主役は子どもたちの理念の基、子ども達が普通の家庭生活を送れるよう養育している様子が伺えました。

第3回目は、児童センターの現状と島内児童センターの実際の活動について、映像とともに話を聞きました。

我々が普段関わることが少ない施設、事業内容が良く分かったとの声が寄せられました。

社会福祉部会

部会長 上條 徹

社会福祉部会として今年度2回の研修と1回の視察研修を実施しました。第1回研修は4月に「松本市避難行動要支援者名簿の概要と活用の仕方」について研修を受けましたが、幸いなことに松本では大きな災害もなく避難支援をしないで済みましたが常に意識はしていないといけないと改めて認識しました。

第2回は6月に視察研修として駒ヶ根市のJICA海外協力隊の研修施設を見学しました。施設では協力隊として派遣経験のある職員の方に説明をして頂き所内の見学をしました。体験談など聞けて大変有意義な研修でした。より多くの皆さんに知って頂きたいと思うところです。

第3回は9月に「地域包括ケアシステムの現状と課題について」研修を受けました。研修については毎年同じ内容ですが、年ごとにメンバーが変わるので仕方がないことだと思えます。最後に講師をして頂いた市の職員の皆様にお礼を申し上げます。

高齢者福祉部会

部会長 丸山 寛子

第1回研修は、南西部地域包括支援センターの浅輪みちるさんに、「お年寄の現実」についてお話いただきました。具体的な事例への対処の仕方など、とても参考になりました。

そして8月に予定していた視察研修が、台風の影響により残念ながら中止となったため、第2回研修は、当初の予定を変更して、お昼を挟んでの1日研修とさせていただきます。午前は、社会福祉協議会西部地区センターの中村ひとみさんに「傾聴について」と題してお話をしていただきました。午後は、高齢者疑似体験をグループごとに分かれて行いました。体験セットを使いながら、楽しい交流の場となりました。部会の皆さん、ご協力ありがとうございました。

障がい者福祉部会

部会長 鈴木 紀孝

この部会では、障がい者福祉制度について勉強していこうと目標を立て、2月の役員会で2回の研修と1回の視察研修を計画しました。

5月に、松本市の障がい者福祉制度について講義して頂き、いろんな障がいの事をもっと知ってほしいこと、障がい者手帳についてなどを学習しました。

7月の研修では、特に精神障がいについて講義を受け、精神疾患や統合失調症の症状や特性について学びました。

9月の視察研修では、上田の「まるこ福祉会」に行き障がい者の生活支援、就労支援の現場を見て、障がい者の生涯を支援していく姿に感動を受けました。

総じて、部会の皆さんが熱心で、研修の参加者も多く、質疑も活発で充実した部会だったと思います。社協のサポートありがとうございました。

広報部会

部会長 米澤 久雄

光陰矢の如しとはよく言ったものだなと思う今日この頃です。広報部会長を引き受けてから、瞬く間に「ふれあい」90号91号、そして92号と進んでまいりました。号を重ねる度に思いましたことは、投稿を頂いた記事の中から、私自身、経験をしたことの無い民生児童委員の仕事についての取り組み方や考え方を幾つも気付かされたことでもあります。

企業活動においても、同じ業務に取り組んでいるグループの中で大切な要素の一つが情報の共有です。本誌の使命がここにあるのだと思います。

終りに、不慣れなため不首尾な事柄が多々ありましたことをお詫び申し上げ、各号に寄稿頂きました委員のみなさま、ご指導いただきました役員、事務局のみなさまに感謝を申し上げます。ありがとうございました。ありがとうございました。

くご支援ご協力ありがとうございました

1期目の民生委員・児童委員さんにお話を伺いました。

梓川地区民生委員・児童委員協議会

小林 美代子

令和4年の夏ころ、町会長から「民生委員をやってくれないか」という話がありました。いくつ探しても断られ、困っているとのことでした。「私でいいのかしら」と思いましたが、やむを得ず引き受けてしまいました。

私の町会は代々民生委員は男性だったそうです。中には自動車もそんなに普及していないころ、自転車で廻り、会う人たちに「元気かい」と声をかけていたとのこと。その一言で安心することができたという話も聞きます。今では自動車でも動いてしまうので、声をかけることもままありません。

私はこの町会の生まれなので、大概の方は知り合いです。訪問する先の

方々（特に女性の方）とは懐かしくて、ついおしゃべりが弾んでしまいます。男性の方はリング栽培をされていてまだまだ元気ですし、女性の方も元気に家事をするなど手が掛かるようなこともあります。

委嘱された1年目に研修がありました。さまざまな事例とそれに対する対処法等について教えていただき、自分がどのように活動していっていいか少しづつ見えてきました。必要があれば関係する部署に繋いでいけばよいのだと思っていいます。あまり深入りせず、よく話を聞くように心がけ、民生委員として頑張っていきたいと思っています。

子供達を救え

— SAVE THE CHILDREN —

鎌田地区民生委員・児童委員協議会

岩垂 徹

イスラエルのガザ侵攻から、12,000人の子供達の命が失われた。いかなる理由があろうとも、政治的指導者に煽動された戦争によつて子供達を殺すことは許されない。ウクライナでは、子供達が拉致されシベリアに送られる。また戦乱混乱の地から子供達が臓器売買のために閉じ込められる。国際司法裁判所から逮捕を要求されても、聞く耳もたぬ愚者、殺人者の群れ。

我々は、何をすべきか？残された時間はとても少ない。日本ではどうか？県内2ヶ所の児童福祉施設を見学させて頂いた。男女6人1ユニットを形成し、個室が与えられた共同生活。不自由ないように見える子供達は、学校に行っていて、会うことが出来なかった。彼等がその施設に入所している理由。75%が保護者であるべき親からの虐待、ネグレスト。手や足、眼を

失った戦乱の地の子供達と違い、日本の子供達は、心を傷つけられ、踏みこまれた子供達なのだ。戦乱の地の子供達と物質的に恵まれた日本の子供達を比較することは意味が無い。とにかく早急に子供達の命と体、心を護らなければいけない。

我々はごちそうの載ったテールブルで、殺戮のニュースを見ている。明らかに、倒錯した世界で日常を送る私達。欺瞞だと言つて目を背けることなく私達は何をしなければならぬのか？傷つけられ、踏みこまれた子供達が復讐心を持つて成長しない事を祈るのみ。

日本の地方都市の民生児童委員、出来ることは有ると信じる。戦争を憎み、子供達を覆うあらゆる悲惨を憎むこと。心ある世界中の人々とながつていくこと。核戦争の未来がやってくる前に：

主任児童委員の活動を通して 感じていることをインタビュー

東部地区民生委員・児童委員協議会 主任児童委員 小澤 映子

—2年間活動してきた感想は？—

専業主婦であり社会との接点が少ない自分にできるのか不安しかなかった。でも、研修を受けたり、講演を聞いたり、仲間と話し合ううちに、自分自身が抱えていた疑問や悩みが晴れて、自分の子育てや生き方に自信が持てるようになってきた。そうなってくると親子に会う事も子育て支援事業も楽しくなる。そこで出会えたお母さん達に、反省も含めた自分の子育て経験を話しながら元気に活動している。

—思い出に残っていることは？—

赤ちゃん訪問をした親子が子育て支援事業に来てくれて、「楽しかった」と言われた時はうれしかったな。その親子はふれ健などの公民館行事にも参加してくれて、先日はお父さんも一緒だった。若い親子がいてくれるといつもと違う雰囲気も生れ、場がにぎやかになり良かった。



東部地区キャラクター「あずまちゃん」
作：小澤映子

—これからやってみたいことは？—

自分もそうだったけれど、子育て中のお母さんは気忙しく疲れている人も多い。そんなお母さんがリラックスできるように、手のマッサージやアロマセラピーなどを子育て支援でやってみたい。

インタビュー…乾 美知子

庄内地区

地区活動の様子



歌う堀六平さんと聴き入る参加者

城北地区「ふれあい会食会」(10月31日)



公民館 避難所設置訓練の様子 (9月7日)



役員が書いたお品書きやランチョンマットとお弁当



育成会主催 やまびこ子どもまつり「ぐりとぐらのパンケーキ」を作って食べました。(7月20日)



福祉ひろば「やんちゃくらぶ」乳幼児の救命救護法を学びました。(10月7日)

ワンポイント アドバイス

今年11月で民生児童委員を拝命して5年が経過しました。1期目の3年間はコロナ禍で諸先輩方から伝え聞いた活動ができない状態でした。具体的には、コロナ感染警戒宣言が出されているとき、独居高齢者や高齢夫婦世帯の見守りは、訪問せずに電話を掛けて様子を伺いました。しかし、電話の声だけではご本人の様子を伺い知ることは難しいです。話し下手の方もいらっしゃるようです。やはり、訪問して顔を会わせながらお話を聞いたりしてコミュニケーションを図ることが良いと痛感しました。独居高齢者の中には外出を控えたことで体力低下を招きフレイル状態となつて入所された方もいました。ただ、入所を想定して事前に地域包括センターの担当者に繋いでご本人およびそのご家族と協議ができたことは幸いでした。

また、1期目のコロナ禍では児童との接触機会がほとんどありませんでした。保育園の卒園式・入園式、小中学校の卒業式・入学式への招待は無くなり、児童だけでなく先生方との面識機会も無くなりました。2

1期目を踏まえた2期目の活動

芳川地区民生委員・児童委員協議会

山寺 彰一

期目も同様な状態が続いており、これら式典の見直しはやむを得ないものと思います。そこで、児童との接触機会を自主的に作るべく、2期目から担当する村井町に属する民生児童委員の方々に呼びかけて、担当地域で行われる夏休み中のラジオ体操に参加することになりました。少子化で子どもの数が減っているとは言え、担当地域にどの程度の数の児童がいるのか肌身で感じることができるよう機会になったと思います。

そして、芳川地区地域づくりセンターでは、かねてより検討していた「こども食堂」を本年から開催しています。3月の春休みに初回、7月から8月に掛けての夏休み期間中に2回、合計3回開催されました。「こども食堂」の運営には、芳川地区地域づくりセンターの職員や食生活改善推進委員、民生児童委員やそのOB、町会役員や学生さんなどのボランティアの方々加わっています。「こども食堂」ではカレーなどの食事を作つて子どもたちや同伴家族に提供するだけでなく、子どもたちが自由に勉強や遊びができる場所を提供し、地域全体で見守ることができ

ています。

なお、民生児童委員は、日常の活動以外に、家事や仕事などに従事している方がたくさんいます。芳川地区民生児童委員協議会では、健康など自己管理を優先して過剰な負荷を避け、持続的に活動することを申し合わせています。

民生委員・児童委員活動を振りかえつて

島内地区民生委員・児童委員協議会

小原 康男

民生委員に携わる中で、最近感じた事です。

言うまでもありませんが、急速に高齢化が進む中、農家離れも例外ではありません。田や畑は継がず、親御さんと別居されている方が増えていくのは、新築住居の数を見れば一目瞭然です。

赤ちゃん訪問の依頼があつた時等は、番地で検索して行くのですが、

表札は無く里帰りしている人もいるのでしよう、問をあげながら数回も訪問したりしました。

個人情報ですから仕方ないのでしょうか？何かと気を使う、民生・児童委員活動ですが、前向きに考え、活動を楽しんで行こうと思つております。



芳川地区
3月28日「子ども食堂」
おいしいカレーができました



部会活動の様子

高齢者福祉部会（10月16日）



傾聴について



装具を着けて高齢者体験



杖や歩行補助具の体験

障がい者福祉部会 視察研修（9月17日）
まるごと福祉部会、障がい者支援施設「きうり」



視察研修受入れ

富士吉田市 民生委員児童委員協議会 視察研修受入れ（10月29日）



研修の様子

主任児童委員会
県主催 研修（9月2日）



「福祉×教育 ヤングケアラーの
支援をみんなで考える」

講演会（9月30日）



「赤ちゃんから大人までの心を育てる」

福祉政策課 課長補佐 丸山 花代子

民生委員・児童委員の皆様には、日頃から地域福祉活動にご協力いただきまして感謝申し上げます。

長野県では、民生委員・児童委員さんにご協力頂き、令和元年に「ひきこもり等に関する調査」を行いました。松本市内に2029人の該当者があり、年代は40歳～50歳男性が多い結果でした。全国では、推計146万人いるといわれています。

国では、ひきこもりとは社会的参加（仕事や学校など、家族以外の人との交流等）ができない状態が概ね6か月以上続き、自宅にひきこもっている状態としています。

しかし、ひきこもり当事者が語る情報は少なく、真相はなかなか分からない状態でしたが、令和3年に一般社団法人ひきこもりUx会議が行ったひきこもり当事者・経験者へのオンライン等の調査で、ご本人が抱える苦しさや課題が明らかになりました。

当法人が発行した「ひきこもり白書2021」によると、その調査に届いた声は切実なものが多く、「就労したいが、かつての人間関係のトラウマを抱え、再び人と関わり仕事をしていくことに自信がない方」や、

「うつや発達障がいなど、こころの不調を抱える方」も多くいらつしました。就労の経験がある方も多く、ひきこもりの状態は、だれにでも起こりうるものであり、そのような方が、みなさんの地域の中でも暮らしていらつしやうと思います。

ひきこもりUx会議代表理事の林恭子氏は、地域の方には、ご家族や当事者に対して普段の生活で、あいさつを交わし、言葉に出さなくても「見守っている」という立場で当たり前に接してほしい、と語っています。普通に会話することが、安心感につながり、「この人だったら相談しようかな」というきっかけになると言っています。

当事者の「生きづらい状況が改善したか」という問いに、多くの方が「安心した居場所が見つかったとき」と答えています。ひきこもりの状態にある方が、困っている声をあげられる地域、そして、そこが安心した居場所になるよう、これからご協力をお願い申し上げます。

ひきこもりのご相談がございましたら、地区担当保健師や福祉政策課（電話34-3227）にお声がけください。

つづき

庄内地区民生委員・

児童委員協議会

久保 由美子

大河ドラマ「光る君へ」を楽しみに見ている。史実とは違うのかもしれないが、平安貴族のあてやかな装束だけでも見応えがある。

源氏物語を高校の古典で習ったが、ほんの一部分だ。今回通読してみた。と言っても、田辺聖子の新源氏物語全五巻である。光源氏は完璧なイケメンで、出生も高貴、ユーモアもありモテないはずはない。あちこちの女性と関係を持つとんでもないヤツでもある。しかし、これを女性が書いたこと、千年前に書かれたことを思うと驚きしかない。また物語に天皇や親王も登場するから、こういうのを題材にしてもいいのかなとびっくりである。藤原道長の命で紫式部が執筆したことや、当時の天皇も読んでいたというのは事実らしい。紫式部の生きた時代はなんとおおらかだったのだろうと思う。千年後も面白いこの物語を書いたのが、世界に先駆けて女性であったことは、とても誇らしい。

編集後記

第92号発刊にあたり御協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

今回はひきこもりについて、行政の立場からも投稿して頂きましたので御一読ください。人口が減る中、高齢者数が増加を続けているため、私たちの役割は重要かつ多忙になっています。

天候不順の中、健康には十分注意して頑張ります！この発刊で一年間の任期は終了です。お世話になった皆様ありがとうございました。

(K・O)

皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。取り上げてほしいテーマなどがございましたら事務局までお知らせください。

TEL 27-3381 FAX 27-2239